

『花を訪ねて： ツツジ』

塩船観音・霞丘陵山行報告(2023年04月23日(日))

去年4月ビスターリ例会で伊藤さんから、4月中旬の日曜に「塩船観音・霞丘陵山行」の提案があった。コースは岩蔵温泉から霞丘陵ハイキングコースを通過して塩船観音寺(東京100選)でツツジを楽しんで、東青梅駅まで全歩きということだ。この計画は実現しなかったが、今年は“塩船観音でツツジを楽しんだ後、霞丘陵の愛宕山グランド(笹仁田峠)から塩船観音入口へ戻る”という案に変更された。そして伊藤、浦野、三ヶ原、柳澤、陽田の5名が参加して実現した。

集合時刻の9時25分には全員、河辺駅出口に集合した。天気は薄い雲が出ていたが段々晴れてきてまあまあ天気になった。バスは臨時直通で塩船観音入口には9時40分に着いた。ここから7~8分歩いて仁王門(国重文)前に着いた。仁王門をくぐって色とりどりの幟が立つ短い参道を進み、「本堂・圓通閣」でお参りをした後、「関所」で「ツツジ園」への通行手形を¥300で入手する。

10時に「ツツジ園」入口に到着、ツツジ園は馬蹄形状のすり鉢の斜面一面に、昭和41年から植樹してきた約2万本のツツジが植えられていて見事だ。既に枯れている花も幾分あるが、赤、白、ピンク、紫、縞模様などの花が咲き、葉の緑色も加わって素晴らしい景観を呈している。すり鉢底の正面に「護摩堂:弘誓閣」が建ち、その後の山の上に「塩船平和観音像」が立っている。護摩堂脇からツツジの間の細道をジグザグに上へ登って行く、最高所のすり鉢の縁を観音様の方へ歩く。誰かが「この細道は庭師がツツジの手入れのために使うのね」と話していた。納得。観音様の足元から見ると、周りの色とりどりのツツジ群、護摩堂などの幾多の堂宇を見下すことができた。

10時30分に観音像の直ぐ後の入山料を徴収する裏出口から出て、「霞丘陵ハイキングコース」へ進む。落ち葉が積もっている、ゆるゆるとした下り道で、右側は急な傾斜地、左側にはゴルフ場があった。少し登る所もあったが大体は下り傾向で進む。2ヶ所ほど7~8m程だが上り木段があり、また、10m位下に流れの無い沢地があって年配の方が三つ葉を採っていた。向うから来るハイカーも幾らかいたが、全般に静かなコースだ。

11時05分に「笹仁田峠」に到着して、ここから南へ下って11時25分に「塩船観音入口」バス停に到着した。バスは11時50分到着まで待って乗車、河辺駅の一つ手前で降りて、12時15分、浦野さんご推奨のお食事処:「とんでん」に腰を落ち着けた。

各々好みの飲み物で乾杯した後、今日は簡単なコースだったので、反省する事もなかったとの結論になった。柳澤さんから「舎人公園」のネモフィラが綺麗という情報があったので、来年の一つのテーマになりそうだ。ところで“晴れた昼間の品定め”で、Aさんは洗濯、皿洗い何でもこなしてくれる、更に最近は料理の腕も上げ何処かでボランティアまでしているので、女性から理想の男性と評価されていると。Mさんはとぼけたところがあるが、律儀で細かい仕事(山行の計画など)をこなすし、山歩きも積極的で素晴らしいと、皆さんの一致した評価だった。浦野さんは相変わらずマメで、今は俳句に精を出していると。またJR東が作った吉永小百合の宣伝ポスターに従い、あちこち“追っかけ”をやっていると。最近では喜多方と廃線になった日中線跡地に出掛けたとか。この方の多方面の活動もたいしたもの(少しは見習いたいが無理かな)。これからの山行の実計画、案なども話題になったがこちらは5月の例会で議題になるでしょう。話はなかなか尽きなかったが、13時45分お開きにして、青梅線の車内で流れ解散した。

以上 陽田



仁王門（国重文）



ツツジ園



護摩堂:弘誓閣、背後に塩船観音像が立つ

